

災害時、施設を避難所に

日田市とグリーン発電大分協定

「災害時における協力等に関する協定」調印式



調印式に臨んだ（左から）原田啓介市長、森山和浩社長、松本隆義自治会長＝日田市役所

24時間発電でき、停電にも対応する。隣接する日本フォレスト天瀬工場の会議室なども避難待機所として活用。2棟で最大約40人を受け入れる。

調印式が市役所であり、原田啓介市長が「万が一の時は地域の助けになってください」とあいさつ。森山社長(41)は「大きい災害が短い期間で起きている。備えを万全にし、地域に貢献したい」と話した。

同地区は2016年の熊本地震の際、停電や断水で、一部の住民が避難所生活を余儀なくされた。昨年の7月豪雨時も土砂崩れの被害があった。松本隆義自治会長(70)は「指定避難所も老朽化しているので協定は心強い」と話した。

(首藤福功)

【日田】日田市天瀬町五

馬市のグリーン発電大分(森山和浩社長)と市は2月26日、災害時に同社施設を住民の自主避難所として活用する協定を結んだ。対

象は五馬市西地区。

災害時に発電所内の中央操作室や休憩室など延べ170平方メートルを開放する。トイレやシャワー室が使える。木質バイオマス発電で

2021年3月2日 (火)
大分合同新聞 15面
(地域面)